

新聞から会話の種

読谷 団体役員らへ講座

【読谷】琉球新報記者による出前講座「おでかけりゅうPON!」が10



新聞から記事を選び、会話を楽しむ参加者ら＝10日夜、読谷村文化センター

日夜、読谷村文化センターであった。村内の婦人会や青年団協議会、PTAの役員ら約35人が参加し、新聞から喜怒哀楽や驚き、幸せを感じた記事

を選ぶワークショップなどを楽しみながら、地域のコミュニケーションを深める新聞の活用方法を体感した。

講座は、同村教育委員会生涯学習課による社会教育団体向け合同研修の一環で、役員の実質向上と横の連携を図る目的で開催した。

琉球新報編集局の普久原均次長兼NIE推進室長が記事の内容を伝える見出しやレイアウトなど新聞の工夫を紹介した。参加者はグループに分かれて、記事から感じた喜怒哀楽などをウチナーグチで表現するワークシ

ョップに挑戦。「アキサミヨ」 「涙グルグル」 「シタイヒヤ」などの言葉とともに、なぜそう思ったのかをお互いに説明し合うと、「分かる分かる」など会話が盛り上がり、笑顔が広がった。

松田恵子さん(56)は「地域のコミュニケーションや、婦人会、女子会、PTAのゆんたくは新聞のニュースから感じる楽しいひとときだった」と笑顔を見せた。読谷高1年の金城広弥君(16)は「普段から新聞を読んでいるが、より深く幅広い内容に目を向けた」と話した。